

# 東西アジアを結ぶ友情の絆

— 130年の時を超えて

## トルコ軍艦の海難事故から、 在イラン日本人の救出へ

日本とトルコには長い歴史があり、両国とも文化、伝統、アイデンティティーを重んじる国である。両国の絆と友好は19世紀後半にまでさかのぼる。1890年9月、トルコの軍艦「エルトゥールル号」が日本への親善訪問を終えた帰路、和歌山県串本町沖で難破した。地元住民は負傷者を献身的に救護し、奇跡的に生き残った水兵はイスタンブールに帰還出来た。この出来事は、両国関係の記念碑的な始まりとなり、その後の強固な関係構築へと繋がった。現在、串本町にあるトルコ記念館は、事故の記録を残すだけでなく、両国友好の証しともなっている。

以来、トルコ国民の間では親日感情が高まっている。1897年の新聞「Malumat」情

ターキッシュエアラインズ会長

イルケル・アイジユ

Iker Ayçi



報」は、「日本国民は知性に溢れ、進歩発展に確固たる考えを持ち、日本政府は国力の維持発展に努力している」と報じた。1904年の新聞「Surayi Ummet」(共同社会)も、「日本では、日常生活の中に愛国心と国益の思想が浸透しており、それが同国の独立性保持につながっている」と記している。1923年に我が国がトルコ共和国の宣言をすると、1924年に日本政府は国家承認を行い、翌年に大使館を開設した。

過去30年のグローバル化とともに、両国の絆は一層強くなった。それに先立つ1985年3月、重要な事件があった。イラン・イラク戦争の際、全ての航空機が撃墜対象になる危険がある中、トルコ政府の指示で当社救援機が、現地日本人215名の救出に向けてテヘランへと飛び立った。当社にとつて、これは極めて重大な任務となった。「エ

ルトゥールル号」の水兵が日本国民と日本政府に救助されたことを我々は片時も忘れたことがなかったからである。当社社員は日本国民のお役に立てたことを心から誇りに思っている。

## 現代につながる二国間の協力関係

その後も、両国は、航空、投資保護、租税の分野で二国間協定を締結し、2003年の日本でのトルコ年、2010年のトルコでの日本年、2019年の日本でのトルコ文化年などの事業を実施してきた。2015年には、エルトゥールル号事件とイランからの日本人救出を題材にした両国合作映画「海難1890」が制作された。

また、1974年竣工のハリチュ(ゴールデン・ホーン)橋をはじめとするインフラ建設、2020年4月に開業(部分)したパシヤ

クシエヒル松と桜都市病院(トルコ最大の最新鋭病院)などが日本との協力によるものである。<sup>(注1)</sup>日本企業は現在、トルコ国内220カ所以上で各種工場を操業しており、第三国でも共同プロジェクトを進めている。

将来に向けて両国の潜在的な可能性は高い。地理的にトルコはアフリカ、中東、欧州に隣接している。これら地域でのトルコ企業の経験を活用すればメリットがあり、日本の投資家にとっても魅力となる。当社は継続的に新規路線を増やしており、世界で最多の路線数を誇る。我々はこれら地域との経済交流にも資することが出来る。

近年の保護主義の高まりと現下の新型コロナウイルス感染症のパンデミックを契機に二

国間関係の重要性を改めて認識した。当社は人と物資の輸送を通じて両国を繋ぐだけでなく、相互の発展に貢献出来よう。両国の観光分野には多くのチャンスがあり、当社の貨物部門は新鮮な農産物や工業製品の輸送にも寄与出来る。

### 日本との関係強化に向けた 当社の取り組み

1989年に日本との路線を開設してから、両国間の航空需要は継続的に増加し、過去10年で旅客数は70%増、旅客輸送能力は32%増、貨物は68%増となった。2020年現在、日本とは3路線(羽田、成田、関西)を開設している。パンデミックの影響でフライトは減少しているが、正常に戻れば週11便(羽田7便、成田4便)の運航となり、関西線の再開も予定している。今後さらに便数を増やしていきたい。

パンデミックに鑑み、当社では安全と感染防止に必要な対策はすべて講じている。空港における非接触のチェックインと搭乗手続き、清掃と消毒の衛生管理、指定の密閉容器によるミールおよび機内サービスの提供などを行っている。また、財務面でも複数の対策を取り、経費削減にも努めている。一方、貨物輸送は著しく増加しており、2020年上半期末時点での手元資金は、健全な状態を維持している。

パンデミックは、国と地域によって影響が異なる。航空需要の正常化と経済不況からの回復は2022年にずれ込み、その後も数年かかりそうである。過去20年、トルコは、地域的な機関や国際組織への参画を増やしてきた。大使館、領事館の開設数は世界上位5カ国に入る。トルコは「アジア 新たな第一歩」を指針として掲げ、アジアとの関係拡大に努めている。貿易、防衛、学術、技術協力、文化交流などの分野における日本との関係は極めて重要である。最後に、安倍晋三前首相の至言を引用したい。<sup>(注2)</sup>

「世界に平和と安定をもたらそうとして働くトルコと日本は、この、広いアジアを東西から支える二つの翼である。アジアに平和を。そして繁栄を。トルコと日本は、アジアを飛翔させる二つの翼、両翼なのである」

(注1)具体的には、1988年竣工のファーターティフ・スルタン・メフメト(第二ボスボラス)橋、1990年設立のトヨタ・モーター・マニユファクチャリング・ターキー社、2013年開業のマルマライ海底鉄道トンネル、2014年発効の原子力協定、2015年発効のシノプ原子力発電所建設に関する協定、2016年竣工のオスマン・ガーズイー(イズミット湾横断)橋。

(注2) 2013年10月29日、マルマライ・プロジェクト開通式典における安倍内閣総理大臣スピーチ。  
[https://www.kantei.go.jp/jp/96\\_abe/statement/2013/1029speech.html](https://www.kantei.go.jp/jp/96_abe/statement/2013/1029speech.html)参照

